

問1 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 1 2 6 参照

「道路において工事若しくは作業をしようとする者又は当該工事若しくは作業の請負人」

問2 答え② 交通信号工事設計ハンドブック資料 1 - 2 参照

信号の種類が黄色の灯火のとき、歩行者は道路の横断を始めてはならない。

問3 答え② 交通信号工事施工ハンドブック P 2 1 参照

クレーン等安全規則第 2 1 5 条【不適格なワイヤロープの使用禁止】  
直径の減少が公称径の 7 パーセントをこえるもの

問4 答え① 交通信号工事施工ハンドブック P 3 2 参照

① 複式シャベル

問5 答え⑤ 交通信号工事施工ハンドブック P 3 0 参照

⑤ 舗装ハンドカッター

問6 答え⑤ 交通信号工事施工ハンドブック P 6 1 参照

⑤ 巻付けグリップ

問7 答え⑤ 交通信号工事施工ハンドブック P 3 8 参照

【参考】スパイラルは製造方法の分類

問8 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 6 6 参照

④ ターンバックル

問9 答え④ 交通信号施設保守点検ハンドブック P 7 0 参照

保安動作に移行する仕様である。

問10 答え④ 交通信号施設保守点検ハンドブック P 7 6 参照

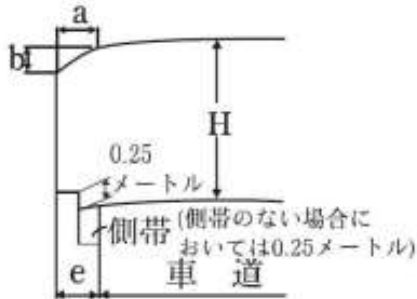
送受器が断線したとき、感知信号は「有」で出力する仕様である。

<道路構造令第12条 第1図(1)>

○車道に接続して路肩を設ける道路の車道の場合

(トンネル、橋・高架の道路(長さ50m以上))

かつ 歩道、自転車道等を整備しない場合)



H : 4.5m (普通道路)

(ただし、第3種第5級、第4種第4級はやむを得ない場合は4m)

a, e : 車道に接続する路肩の幅員

b : Hから3.8mを減じた値

問 1 2 答え① 交通信号工事施工ハンドブック P 3 4 参照

必要最小限の範囲とする。

問 1 3 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 6 0 参照

管路に屈曲のある場合は、屈曲点に近い側のハンドホールから引入れる。

問 1 4 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 3 6 参照

2 m以上の掘削の場合は、作業主任者の指揮で山留作業を行う。

問 1 5 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 7 1 参照

問 1 6 答え② 交通信号工事施工ハンドブック P 6 1 参照

自己支持ケーブルの場合は、1 0 mに1回の割合で撚回する。

問 1 7 答え② 交通信号工事施工ハンドブック P 4 0 参照

練混ぜから打込み終了までの時間の制限がある。

問 1 8 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 1 9 参照

乗車席以外に作業員を乗せてはいけない。

問 1 9 答え④ 交通信号工事施工ハンドブック P 1 1 参照

作業後に塵埃物への散水を実施する。

問 2 0 答え④ 交通信号工事設計ハンドブック P 1 5 参照

A  $(P \times 2) + (V \times 1) + (A \times 1) + (\text{Common} \times 2) = 10$

B  $(P \times 2) + (V \times 2) + (A \times 2) + (\text{Common} \times 2) = 14$

C  $(P \times 1) + (V \times 1) + (A \times 1) + (\text{Common} \times 2) = 8$

問 2 1 答え③ 交通信号工事施工ハンドブック P 6 参照  
安全警備員を含めて実施

問 2 2 答え① 交通信号工事施工ハンドブック P 9 参照  
環ひもの調整は禁止

問 2 3 答え③ 交通信号工事施工ハンドブック P 2 3 参照  
作業者は特殊健康診断を受診しているか。

問 2 4 答え② 交通信号工事施工ハンドブック P 8 4 参照  
出来形の均一性を保つための管理でもある。

問 2 5 答え⑤ 交通信号工事施工ハンドブック P 1 1 1 参照  
遠隔動作は手動動作よりも優先順位が低い。